

九州海外協力協会だより



2019年・夏号

特定非営利活動法人



去る5月25日に第15回通常総会が開催され無事終了しました。すでに言い古された感ではありますが、「令和最初」の総会となりました。会場までご足労頂いた会員の皆様には心より感謝申し上げます。また、ご出席は頂けなかったものの、委任状を送付して頂いた皆様からの応援のメッセージもしっかりと受け止めました。ありがとうございました。

ここからの1年間も、事務局職員一同、当協会のミッション、「協力隊経験の社会還元」「未来を切り拓く人創り」「世界と九州をつなぐ窓口」の使命を果たすべく、努力して行く所存です。

引き続きご指導ご鞭撻頂ければ幸いです。（馬田）

#今年はラグビーイヤー！ラグビーワールドカップ関連の業務を実施しています！

【Childfund Pass It Back delivered by DHL in 府中市】

3月末に「ラグビーの町府中市」にてChildfund Pass It Back Cupを実施しました。ベトナムと府中の中学生がタグラグビーを通じてラグビーの価値を学び、SDGsの考え方や生きる力を身につけるプログラムです。米村はマスターコーチとして、運営やコーチ研修、子どもたちのディスカッションのファシリテーターその他諸々の業務を担当し、九州海外協力協会で培ったノウハウを駆使して尽力しました。ゲストには元ラグビー日本代表の大西将太郎さんが来てくださいました！大西さんは、すごく気さくで子どもたちに大人気でした。最終日にはタグラグビー大会を実施し大いに盛り上がりました。全日程を通し、ベトナムの子どもたちとコミュニケーションを取りながら一生懸命頑張っていた府中の中学生1名にスポンサーのDHLから、「ボールデリバリーキッズ」の権利（ワールドカップ日本大会「Japan vs Scotland戦」にて、キックオフのためのボールを、フィールド中央まで運ぶという素晴らしい役割です）がプレゼントされました。次回のPass It Back Cupは大分県別府市で7月末に開催予定です！今から楽しみです！（米村）



【AIG主催 ラグビー女子セブンズNZ代表のタグラグビー教室】

2019年4月16日に、北九州市立富野小学校にて「女子セブンズニュージーランド代表によるタグラグビー教室」が行われ、米村が通訳を担当しました。当日はNZ代表「ブラックファーンズ」7人制の選手3名が参加し、ラグビー元日本代表の大西将太郎氏をコーチに、4年生48名がタグラグビーを体験！！子どもたちは、ウォームアップや練習、ゲームを通じてブラックファーンズセブンズの選手から、世界最高峰のスキルとラグビーの楽しさを学びました。

参加したナイオル・ウィリアムズ選手は「タグラグビー教室に参加できて光栄です。皆さんからすごいエネルギーを感じました。いつかまたラグビーを通じて皆さんに会えると嬉しいです。」とコメントしていました。（米村）



特集！海外の「怖い話」



夏といえば怪談。背筋が凍る世界の怖い話をお届けします！

怖い話が大好きな米村職員によるミクロネシアの怖い話です。

ここはミクロネシア連邦ウー村。男たちはうちのホームステイ先の軒下に輪になって座っていた。夜はあまり電気をつけないので、うすうすと話の中心になっているおじさんの顔が見える。鎮静効果のある伝統の飲み物「サカウ」のせいで、こころなしか目がよどんでいる。「そうだ、淳平にはまだ聞かせたことなかったな、ポンペイの怖い話。」そう彼は切り出した。「ウー村サラダックからアワック方面へ向かったあの曲がり道。そうだ、あの海沿いの道だ。」というか全部海沿いなんですけど…。「そこに斜めにせり出したヤシの木が並んでいるだろう。」確かに。いろんなヤシの木があるけどあの道はとくにノの字になった、海に向かってせり出したヤシの木が多い気がする。

「何であそこのヤシの木が斜めに曲がっているか知っているか？」彼はたっぷり時間を取ってこう続けた。「あれはな、昔あの場所で死んでしまった女の子が、夜な夜な空からブランコに乗って蹴ってるんだ。だから曲がってるんだよ。あの場所で酔っ払った男が歩いていて、蹴られて慌てて逃げてきたこともある。ほんとだよ。」「どうだ、怖いだろう〜？」おじさんはにや〜と笑う。

…全然怖くなかったので、日本の病院の怖い話をしたらみんな震え上がっていました(笑)



疑惑のヤシの木

怖い話は嫌いでもない河野職員によるカンボジアの怖い話です。



ノーヘルで3人乗りは当たり前

ここはカンボジア王国シェムリアップ市内。プロジェクトのカンボジア人スタッフと昼食を食べていた時に、ふと私が「そういえば、空港近くの廃業したホテルを韓国人が買いたいって言ってたよ。なんか、幽霊が出るんだって？」ときいたら、スタッフが凍り付いた。

「姉さん(日本語で訳すとマジで姉さんと呼ばれてます。普通です。)、あのホテルへ行ったのか?」「あそこは本気でヤバイよ。私の弟の友達が…」と語り始めた。

そのホテルの名は「ノーコーリエン」。夜、そのホテルの前をバイクで通ると事故にあってしまうという呪われたホテルである。理由は「わからない」けれど、「幽霊の仕業だ!!」ということで、スタッフたちは数多くの犠牲者の話をしてくれた。

「やばい、夜は絶対通れない」と震える彼らをよそに…私は半笑いだった。

事故にあったのは若者が多く、その道は工事などで穴だらけ。そして夜に多発する事故。

それ、運転ミスではなからうか。しかし、そんなこと言えるはずもなく、幽霊におびえるスタッフたちが事故にあわないように、夜バイクを乗るときはくれぐれも注意をするようにいっておきました。そんな話をしている横で本日もバイクと車がぶつかって人が飛んでいきます。もちろん保険なんて掛けている人はごくわずか。私は常々、カンボジアで一番怖いのは交通事故だと思っています。

怖い話が大好きな橋口職員によるエルサルバドルの怖い話です。

ここは中米エルサルバドル。この国には、『シピティオ』という伝説の妖精?妖怪?がいます。

シピティオのお母さんが神様を怒らせて、その息子を永遠の子どもにしたと言われている。見た目は子どものようで、とんがった大きなツバの麦わら帽子をかぶり、ポテとおなかを突き出して、そして足首から下は真逆(つま先が後ろを向いている)についています…。あと、シピティオの好きな食べ物はバナナと灰。そして、時々川にやって来る子どもたちを驚かせることが趣味…。って言ってもあんまり怖くないですかね?

そんなシピティオは何気にエルサルバドルのアイドル。私が活動していた放送局でも「シピティオの冒険」という番組が1990年より放送され、シピティオ(役の俳優さん)はどこへ行っても人気者、エルサルバドルで彼を知らない人はいないほどです。放送開始時のまま、数十年と子どもの妖精役を裏声でやってのける彼そのものが、実は妖精ではないかという疑惑が…一番怖いと思っている私です。



会うたびに政治家のように固い握手をしてくれるシピティオ

私の任国自慢！ ～ブータン王国～

26年前の
馬田です！

ブータンの民族衣装、男性用の「ゴ」と女性用の「キラ」はご存知の方も多いと思います。ここでは男性が肩にかけるスカーフ、「カムニ」についてご紹介します。写真の若者(26年前の馬田)が肩から斜めにかけている白い布のことで、これはお役所やお寺に行くとき、偉い方に会うとき等、公式な場で着用するもので、洋服だとネクタイに近い位置づけだと思います。実はこのカムニの色は、身分や階級によって決まっています。写真で私がつけている「白」は一般人のカムニです。その他、ブータンの爵位である「ダショー」の称号を持つ方は「赤」、首相や政府の閣僚クラスの方は「オレンジ」、国王とジェ・ケンポ(高僧)は「黄色」となっています。

これまでに外国籍で唯一、赤いカムニの着用を許された日本人がいます。「西岡京治(にしおかけいじ)」という農業の専門家で、「ダショー西岡」と呼ばれており、すでに亡くなっていますが、ブータンで彼を知らない人はいないと言ってもいいくらい有名な方です。長年、ブータンの農業の近代化に貢献してきた功績が認められ、先代の第4代ブータン国王から爵位が贈られました。日本人として、とても名誉なことだと感じますし、私がブータンの紹介をするときの自慢話の一つになっています。ところで、ボランティアとして赴任し、まだ何もしていないのに、日本人というだけで感謝された経験を持つ方は多いと思います。私はそんな状況に遭遇する度に、その国で活動されてきた日本人の努力に思い馳せるとともに、自分がその関係性を壊してはならないと思っていました。

ブータンでは、「ダショー西岡」をはじめ、それまでに協力を行ってきた日本人の皆さんのおかげで、とりわけその信頼関係は強いと感じています。(馬田)



第15回通常総会が終了しました！！

去る、5月25日(土)に第15回通常総会を博多区で開催され、滞りなく終了いたしました。

昨年度の活動報告や今年度の活動計画を始め、今年度は役員改選も行われました。今年度はラグビーワールドカップ関連の業務や通訳、開発教育の指導者研修などが新たに加わり、活動の幅が広がっていく予定です。

総会終了後は法人会員である青年海外協力協会(JOCA)事務局長の堀田氏によるJOCAの事業計画についての説明をいただきました。また、今年の2月に終了した「カンボジア王国中学校教員指導能力向上プロジェクト」の報告も行い、参加した会員の皆様からはたくさんの質問や感想を頂戴しました。プロジェクトとしては一旦終了しましたが、成果や新たな課題などをモニタリングします。休日にもかかわらず、ご参加くださいました会員の皆様、本当にありがとうございました。



国際理解・開発教育講師派遣します♪

当協会では、国際理解・異文化理解講座の講師を派遣しております。世界のお話が聞きたい！ゲームを通じて世界の現状を知りたいなど、ご要望に応じて講座内容を組み立てます。

現在は学校などを中心とした教育現場への講師派遣が多いですが、趣味のサークルや企業様の異文化理解やコミュニケーションを目的とした講座などにも対応可能です。

ご興味のある方、まずはご相談ください☆



楽しく学べる
講座です！！



自分で作る！ブータン飯！！

【パクシャパ(豚三枚肉と大根の唐辛子煮)】

この料理はブータンでお祝いやお祭りのときに必ず出てくるご馳走です。豚肉は通常皮付きで脂身がたっぷりついたものが好まれます。干し肉を使うこともあり、また違った味を楽しませてくれます。

作り方はとても簡単。ぜひお試しください。

材料(4人分)

- 豚の三枚肉(出来れば皮付き).....500g
- 大根.....1/2本
- 乾燥赤唐辛子.....大3本
- ショウガ.....ひとかけ
- 塩.....少々(想像より多め)

(作り方)

豚肉は少し大きめのブロック、赤唐辛子は種が外に出るような切り方、大根は3~5mm程度の薄切り、ショウガは好みで千切りか薄切りにしておく。乾燥赤唐辛子(種ごと)、大根、ショウガ、豚肉、塩の順で圧力鍋に入れ、少量の水を加えて調理。豚肉が柔らかくなったら、最後に塩で味を調えたら出来上がり！！

唐辛子がいい味を出します！！



特定非営利活動法人 九州海外協力協会
 〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503
 TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304
 E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



(特活)九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動にご賛同いただける団体・個人の皆様に募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより(本紙)」をお送りさせていただいているほか、当協会主催・共催のイベント情報などをご案内しております。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい！



夏の風物詩。
 博多祇園山笠が始まりました！
 中洲川端商店街も飾り山が登場し、気分は一気に「夏」！！
 櫛田神社周辺では法被の男性たちが沢山居ます。
 #博多山笠 #中洲川端 #お祭り #はっぴ

発行: 特定非営利活動法人 九州海外協力協会
 〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503
 TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304
 HP: <http://www.npo-kyushu.or.jp/> E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp

